今月の話題 vol.6

生産中です！ホールクロップサイレージ

稲作農家と畜産農家が農地を生かし互いを支えます

ホールクロップサイレージ（WCS／稲発酵粗飼料）とは、稲の実と茎・葉を同時に収穫し、発酵させた牛の飼料。稲作農家と畜産農家の連携により、従来の水稲栽培技術を活用して栄養バランスのよい飼料を生産することができ、休耕田の利用・集積に向けた取り組みとして、注目を集めています。

村内でも、WCSの生産が進んでいます。9月初旬から、出穂した青い稲の収穫が進んでいました。刈り取りの機械は、収穫した稲をそのままロール状にまとめ、直径約1mの円柱状にして排出。シートを敷いてキャッチしたロールは、専用の小型重機を使って、ラップ材で梱包。乳酸菌を添加することにより、稲の発酵を促進させます。

9月初旬、一斉に始まった収穫作業におじゃましました。

須萱地区の水田で行われていたWCS用の稲の刈り取り。「松一さんの田はヒエも混じらず、さすがだな。牛も喜んで食べるだろうね」と山田猛史さん（右／関根・松塚）。地区の農地の集約にも取り組んでいます。重機を運転するのは息子の豊さん。

畜産農家の山田豊さん（左）と稲の栽培に取り組む高橋松一さん（二枚橋・須萱）。互いの仕事に対する信頼が生産を支えます。

汚れを避けるためシートを敷いた上に排出されるロールを、小型重機が持ち上げグルグルグル。あっという間にラップ材が巻かれていきます。

13区営農組合（細川強代表／上飯樋）の作業。今年の販路は地元を中心に確定。県外からも打診がありサンプルを送るそう

「来年は、WCS、大豆、小麦の3本柱でできればいいね」と細川代表。刈り取りが終了すればすぐに耕うんし、来春の準備が始まります。

遊休農地の活用に取り組んでいます

農業従事者の高齢化や担い手の減少は、被災地だけの問題ではありません。遊休農地の維持管理・活用は従前からの課題で、担い手への農地の集積（大規模化）に向けた取り組みや、集落営農への転換が、全国的に進められています。そうした流れの中、稲作農家と畜産農家が連携して自給飼料を生産するホールクロップサイレージ（WCS）は、水田の活用に有効であることから、村内でも生産面積が拡大しています。生産に取り組む農家の皆さんは、獣害対策を行いながら、WCS用米の品質向上、増産などに取り組んでいます。

目次　CONTENTS

2　今月の話題「ホールクロップサイレージ」
4　特集「みかげ石ものがたり」
8　いいたて百景「パークゴルフ場」
10　報告のページ「９月議会定例会」
12　報告のページ「決算報告」
16　学びの広場「運動発表会」ほか
18　ほけんとふくし「敬老会」ほか
20　いいたて便り
22　話題のパレット
23　そのこころはっ／おすすめ図書
24　おしらせのページ
25　入札結果
26　いいたてDIARY／ラオス通信。
27　こころのぽけっと／ひとのうごき
28　HOPES（ホープス）

今月の表紙

この秋、村内のあちらこちらに、ソバの白い花畑が広がりました。表紙は上飯樋地区で満開を迎えていたソバ畑。上の写真は明神岳から「ふれあいロード」に広がった前田地区のソバ畑です。